

沖縄港湾空港技術講演会 に係るアンケートへの回答について

1. はじめに

沖縄港湾空港技術講演会ではアンケートに多数の回答をお寄せいただきありがとうございました。

多数のご意見、ご質問に対して、主なものについては、講演者から下記のように回答が得られましたので、ここに掲載いたします。

2. アンケートへの回答

講演テーマ	
①	水中バックホウ用作業情報呈示システムの適応と遠隔操作化に向けた取組み 水中バックホウ石均し作業用アタッチメントの検証
① 回答	<p>1. 遠隔操作が実用化するのはいつ頃ですか。 >> 2020年度に遠隔操作による試験を実施予定です。 2018年は均しアタッチメント、外界計測センサの要素試験を単独で行い、 2019年にマシンガイダンスに統合、システム化を行います。</p> <p>2. 具体的な使用例があったら、教えてください。 >> 水中マシンガイダンスは本年度から試験的に使用していく予定です。</p> <p>3. 県内、全国で台数は何台有るのか？工事で作業機械を確保できるのか。 >> 水中バックホウは全国で約10台程度存在しています。 そのほとんどが、沖縄で稼働している状況であり、時期の調整は必要ですが確保することは可能だと考えます。 水中マシンガイダンス試験機は1台のみですが、今後普及させていきたいと考えています。</p> <p>4. 視界不良の時の対応はどの様に考えているのか。 >> 透明度が高い沖縄では、視覚情報の補助としてソナーによる地形計測を行います。 今後、全国的な展開を行う場合は、ソナーの高精度化、リアルタイム化が必要だと考えています。</p> <p>5. 現場での見学会の開催予定はないのか。 >> 利用者様からの御意見を頂戴したく、現場見学会は可能な限り実施したいと考えております。</p>
②	海洋コンクリート構造物の耐久性向上技術
② 回答	<p>1. 将来的には、より海洋の影響を受ける防波堤・岸壁の条件下での検討をお願いします。（波かぶりや日光劣化の影響等） >> 浦添埠頭のスリットケーソン式の岸壁に、「エポキシ樹脂塗装鉄筋」が使われ、20年程度経過しています。その一部に対して、コンクリートをはつり、鉄筋の状態を確認したところ、鉄筋は健全な状態を保持していました。（国総研資料933号参照）</p>
③	省令改正により重要となるサンゴ共生型港湾構造物
③ 回答	<p>1. 防波堤目地の隙間で流速に乱れを起こすことがサンゴ生育に良いというのは興味深い話ですが、その影響効果範囲がどこまで及ぼすのか解析が出来れば知りたいところです。（海底面？壁面？タイドプール？） また、サンゴ種に偏りは出ないのでしょうか。放卵放精型と幼生保育型の両方に有効ですか。 >> 現在、ご質問のすべての点において詳細な調査を実施中です。調査結果がまとまり次第、いずれかの機会にご報告させていただきますと考えております。</p> <p>2. 全く資料が無い状態で説明している分野があった。デジタルデータを開発建設部ホームページにUPして欲しい。 >> 可能な範囲で公表したいと考えております。</p>
⑥	港湾分野におけるCIM活用の動向と展望
⑥ 回答	<p>1. 測量、施工、日常管理、定期点検、災害時等の各段階と、施設別（岸壁、泊地、防波堤、道路、ヤード等）でのICT対応状況や今後の開発予定の一覧、スケジュール等は作られていないのか？今、どこまで出来、何時どこまで出来るのか解るようになると利用予定を考えやすい。 >> 国土交通省のホームページに「港湾におけるICT導入検討委員会」第5回説明資料32ページに「今後の展開（ロードマップ案）」として掲載されていますので参照ください。</p> <p>ホームページアドレス http://www.mlit.go.jp/common/001224632.pdf</p>